

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-190	14-088	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Husband's smoking status and breast cancer risk in Japan: From the Takayama study. 日本における配偶者の喫煙状況と乳がん発症の関連：The Takayama study.		
<b>執筆者</b>		
Wada K, Kawachi T, Hori A, Takeyama N, Tanabashi S, Matsushita S, Tokimitsu N, Nagata C.		
<b>掲載誌</b>		
Cancer Sci. 2015		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、乳がん、コホート研究、疫学、受動喫煙		25645582
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
<p>乳がんと喫煙・受動喫煙の関連については、明らかになっていない部分も多い。本研究では、日本におけるコホート研究を用いて、女性と配偶者の喫煙状況と乳がん発症の関連について評価を行なう。</p>		
<b>方法：</b>		
<p>35歳以上の15,719人の女性が対象となった。追跡期間は1992年9月から2008年3月までとした。がん罹患は地域がん登録で確定されたものを用い、乳がんはICD10コードによるC50により定義された。喫煙を含む生活習慣は自記式調査票により調査され、アルコール摂取は妥当性が評価されている食物摂取頻度調査票により算出された。年齢、BMI、アルコール摂取、運動、教育暦、初経年齢、初産年齢、閉経状態、子供の数、ホルモン療法の有無を調整変数としたCOX回帰により、喫煙状況と乳がん発症の関連を評価した。</p>		
<b>結果：</b>		
<p>女性の喫煙状況と乳がん発症の関連はみられなかった。配偶者が喫煙していない非喫煙女性に比べ、配偶者が1日21本以上喫煙している非喫煙女性はハザード比が1.98(95%信頼区間: 1.03-3.84)倍であった。飲酒のない女性におけるサブグループ解析では、5.29(1.14-24.54)倍となり、更に顕著な傾向がみられた。</p>		
<b>結論：</b>		
<p>配偶者からの受動喫煙は、乳がん発症のリスクである可能性が示唆された。飲酒のリスクの交互作用に関しては、更なる研究が必要であると考えられる。</p>		